

った反面、一般事業債は起債希望額の増大もあって相当な増加(前月比62億円増)となった。消化状況をみると、事業債は債券市況の軟化、起債量の増加などから、その消化にはやや難渋した面もみられた。また、政保債、地方債の消化も依然として不ぞえのまま推移している。金融債(純増ベース)は590億円と前月(557億円)より若干増加しているが、これは、割引金融債が証券向けを中心に伸長したことが主因である。なお、利付金融債は、前月期末月の関係から伸長した相互銀行、信用金庫筋の反動落ちや地方銀行の引受けが少なめであったことなどにより前月を下回った。長期国債の証券会社扱い一般募集分(43億円、前月45億円)は、消化環境が必ずしもはかばかしくなかったものの、国債の累積投資の好伸(14億円)や証券会社の販売努力もあって満額消化をみた。

また、11月の起債(純増ベース、国債、金融債を除く)は、561億円と前月(489億円)を大幅に上回る見込みである。これは、主として一般事業債が前月からの繰延べもあってかなり増加(220億円、前月178億円)するほか、政保債も償還減から前月を上回ることによる。なお、新規長期国債の市中引受額は800億円と前月(500億円)を上回っているものの、前年同月(1,000億円)以下にとどまっており、うち、証券会社引受け分は42億円と前月(43億円)を若干下回る水準に決定された。

## 実体経済の動向

### ◇生産の増勢続く

(生産—9、10月と2か月連続してかなりの増加)

鉱工業生産(季節調整済み、以下同じ)は、8月やや伸び悩んだ(前月比-0.2%)あと、9月は冬物生産最盛期入りの耐久消費財、公共事業関係支出の本格化を控えた建設資材の著増を主因にかなり増加(同+1.9%)し、さらに10月(速報、以下同じ)も前月比+2.3%と2か月連続して高い伸びを示した。10月の生産は耐久消費財がやや減少したものの、その他は軒並み相当な増加となり、とくに、7~9月に増勢が鈍化していた一般資本財の著伸と、鉄鋼を中心とする生産財の続伸が目だっている。

最近の動きをやや詳しくみると、一般資本財は9月伸び悩み(-0.7%)のあと、10月は化学機械の反動増に加え、コンベア、圧延機械、機械プレス等もそろって増加したため、+8.1%と著増した。資本財輸送機械は、9月は船舶、鉄道車両を中心に+1.5%の増加を示したあと、10月もトラッ

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減率・%)

	42年		43年		43年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
鉱工業	145.4	148.1	156.1	162.4	161.2	164.3	—
指数							
前期(月)比	5.2	1.9	5.4	4.0	-0.2	1.9	2.3
前年同期(月)比	19.1	17.2	18.4	17.5	16.8	16.3	19.2
投資財	6.9	3.0	5.6	4.4	-0.2	1.2	4.9
資本財	9.1	0.8	6.5	6.0	0.9	-0.1	5.6
同(輸送機械を除く)	8.3	4.7	9.6	1.4	0.3	-0.7	8.1
輸送機械	8.9	-5.0	1.0	15.0	1.7	1.5	—
建設資材	2.0	8.3	3.1	0.6	-2.5	3.8	2.9
消費財	6.1	-1.4	9.0	1.7	-0.9	2.7	0.2
耐久消費財	8.9	4.4	10.8	5.1	0.1	5.4	-0.6
非耐久消費財	4.5	-3.1	5.4	-0.1	-0.8	0.1	1.8
生産財	3.3	3.8	2.4	5.3	0	1.3	1.9

(注) 1. 通産省調べ、43年10月は速報。

2. 前年同期(月)比は原指数による。

クの増加から引き続き上伸した。建設資材は、建設用金属製品、セメント、鉄筋コンクリート管等を中心に9月の+3.8%に続き10月も相当な増加(+2.9%)を示した。耐久消費財は、9月には乗用車の減少にもかかわらず冬物暖房器具を主軸に+5.4%と著増したが、10月は乗用車が増加した反面、上記暖房器具の落込みから微減した。非耐久消費財は、9月は医薬品、たばこ等の増加から+0.1%と微増し、10月もたばこ、繊維二次製品を中心にかなりの増加を示した。この間、生産財は、9月+1.3%の増加のあと、10月もかなりの伸び(+1.9%)を示したが、これは鉄鋼、非鉄等の増加が主因となっている。

#### (出荷——10月は伸び悩み)

鉱工業出荷は9月に前月比+2.2%と大幅増加したあと、10月(速報、以下同じ)は前月比横ばいとどまったが、これは船舶の大幅反動減によるところが大きく、船舶を除いてみるとほぼ前月並みの伸びを続けたものと推定される。資本財輸送機械以外では耐久消費財も著減したが、反面、一般資本財は徐々に著増し、建設資材、生産財も根強い増加基調を継続した。

内容をやや詳しくみると、一般資本財は、9月

はボイラー原動機、化学機械、金属加工機械等の反動減が大きく響いて-1.7%の減少となったが、10月は生産同様、前月減少した圧延機械、機械プレス、圧縮機、送風機、ポンプ、トラクター等がほぼ軒並み増加したことから+12.5%と著増した。資本財輸送機械は、9月には船舶、鉄道車両の大幅増加から相当な増加(+10.5%)となったが、10月は船舶の大幅反動減により著減した。建設資材は、9月の+3.0%に続き10月も相当な増加(+3.9%)となったが、これは主として建設用金属製品、セメント、木材等の出荷好調によるものである。耐久消費財は、家庭電機(冷蔵庫、洗たく機、テレビ)を中心に9月は+3.2%と好伸したが、10月は乗用車の伸び悩み、冬物電気製品の出荷減から大幅に減少(-5.2%)した。一方非耐久消費財は、9月には食料品、たばこの減少により微減(-0.9%)したあと、10月はたばこの反動増や、灯油、繊維二次製品等の増加からかなりの増加(+4.9%)となった。また、生産財は、9月は鉄鋼の増加にささえられ+1.4%の増加を示し、10月も鉄鋼の減少にもかかわらず、化学製品の一部、石油、合繊維物等の増加を中心に根強い増勢を継続した。

#### (在庫——製品在庫の増勢続く)

鉱工業製品在庫は、夏場に生じた生産と出荷の乖離がその後も縮小しないため、8月(前月比+1.4%)、9月(同+1.7%)と増加を続けたあと、10月(速報、以下同じ)も+3.9%と大幅に増加した。

10月の製品在庫は各財とも軒並み増加したが、なかでもトラック、乗用車を通じて自動車の在庫増が注目される。このほか、一般資本財や建設資材もかなり増加しているが、これらの中には出荷好調品目も多く、いわゆる在庫過剰感を伴うものではないようである。

9、10月の動きをやや詳しくみると、一般資本財は9月に農業用機械、工作機械等を主体に+3.4%と増加し、さらに10月もトラクター、工作機械等の増加から相当な増加(+5.1%)を示した。また、

#### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	42年		43年				43年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月		
鉱 指 数	140.8	146.6	154.1	157.3	156.0	159.4	-		
工 前 期(月)比	2.5	4.1	5.1	2.1	-0.2	2.2	0		
業 前 年 同 期(月)比	15.4	16.6	17.9	14.8	14.5	14.6	17.1		
投 資 財	0.4	9.4	5.5	1.3	-1.0	3.4	-1.4		
資 本 財	-0.2	9.3	6.5	1.9	-0.5	3.1	-2.9		
同 (輸送機械を除く)	8.0	4.6	9.6	-0.4	1.2	-1.7	12.5		
輸 送 機 械	-13.1	19.2	0.6	6.0	-2.6	10.5	-		
建 設 資 材	2.4	8.6	3.8	-0.8	-3.4	3.0	3.9		
消 費 財	3.3	0.9	7.8	-0.2	0.7	1.8	-0.9		
耐 久 消 費 財	6.5	1.8	12.2	7.3	-0.5	3.2	-5.2		
非 耐 久 消 費 財	2.1	-0.7	5.3	-2.6	2.5	-0.9	-4.9		
生 産 財	3.4	3.0	2.9	4.4	0.1	1.4	0.7		

(注) 1. 通産省調べ、43年10月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

資本財輸送機械も9月に+3.6%と増加したあと、10月もトラックの著増を中心に大幅に増加した。建設資材は、建設用金属製品、セメント等の増加から9月は+3.0%となり、10月も同様にかんりの続伸(+4.4%)を示した。耐久消費財は、9月には暖房用器具の増加が大きく響いて+5.5%と大幅な増加となり、また10月も、テレビが前月に引き続き若干減少したほかは、乗用車、家庭電機等がそろって増加したことから著増(+9.8%)した。非耐久消費財は、9月は食料品、たばこが若干増加したものの、繊維二次製品の減少から微減し、10月も比較的小幅の増加にとどまった。この間、生産財は、9月に鉄鋼、化学製品等が引き続き減少した反面、化繊・紡績等がかなり増加したため全体では若干増加し(+0.6%)、10月も鉄鋼は減少したが、繊維、アルミ、伸銅品の増加から引き続き増加した。

このような出荷、在庫の動きを映じて、製品在庫率指数は9月には89.8(前月比-0.4%)と4ヵ月ぶりに低下したあと、10月は船舶出荷の不振から+4.0%と上押し、93.4と41年5月(95.1)以来の高水準となったが、船舶の一時的な減少を除い

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減率・%)

	42年		43年		43年		
	12月	3月	6月	9月	8月	9月	10月
鉱工業製品在庫率指数	124.2	132.4	135.9	143.2	140.8	143.2	—
前期(月)末比	7.2	6.6	2.6	5.4	1.4	1.7	3.9
前年同期(月)末比	18.0	21.9	22.1	23.6	25.1	23.6	25.3
製品在庫率指数	87.6	90.3	88.3	89.8	90.2	89.8	93.4
投資財	2.7	7.8	-2.3	11.9	4.3	3.5	7.1
資本財	7.2	12.2	-6.0	13.8	6.0	3.7	8.7
同(輸送機械を除く)	6.9	4.4	2.4	6.4	2.5	3.4	5.1
輸送機械	14.8	47.9	-33.7	42.3	18.5	3.6	—
建設資材	-2.8	4.5	2.1	9.6	2.3	3.0	4.4
消費財	10.1	5.8	6.4	6.5	2.3	1.6	5.3
耐久消費財	9.2	14.5	10.5	8.4	1.8	5.5	9.8
非耐久消費財	9.9	0.4	5.1	3.9	0.9	-0.2	0.3
生産財	6.1	5.7	1.4	1.5	-0.6	0.6	1.2

(注) 1. 通産省調べ、43年10月は速報。  
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

てみると在庫率指数は小幅の上昇にとどまったものと推定される。

9月のメーカー原材料在庫は、輸入分の増加を中心に前月比+1.1%と前月に引き続き増加した。業種別には、鉄鋼が4月以降一貫して減少を続けているほか、船舶も著減したが、石油が引き続き著増したのをはじめ、非鉄、機械(船舶を除く)、石炭、窯業・土石等もかなりの増加を示した。一方、9月の原材料消費は、前月比+0.4%と小振りながら増勢を持続した。業種別には、非鉄、ゴム製品、石油が減少したが、その他の業種はほぼ軒並み増加した。以上のような在庫、消費の動きを

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	43年			43年		
	3月	6月	9月	7月	8月	9月
在庫指数	133.4	130.1	131.2	128.8	129.7	131.2
前期(月)末比	2.6	-2.5	0.8	-1.0	0.7	1.1
国産分	3.4	-4.0	-2.1	-1.4	0.3	-1.0
素原材料	10.1	-7.9	-4.4	1.1	-0.9	-4.7
製品原材料	0.6	-2.5	-1.2	-2.4	0.7	0.5
輸入分	0.1	2.0	10.2	-0.2	2.5	7.7
素原材料	-0.9	2.4	10.7	-0.1	2.8	7.8
在庫率指数	90.1	86.4	83.8	83.5	83.3	83.8
国産分	89.4	84.0	78.9	80.8	80.3	78.9
素原材料	107.9	96.2	90.6	95.3	94.9	90.6
製品原材料	86.3	82.5	77.9	78.5	78.2	77.9
輸入分	90.6	95.8	103.8	93.7	94.6	103.8
素原材料	91.4	96.5	105.1	94.1	95.5	105.1

(注) 通産省調べ、43年9月は暫定。

製造工業原材料消費の推移

(季節調整済み、前期(月)比増減率・%)

	43年			43年		
	1~3月	4~6月	7~9月	7月	8月	9月
製造工業	3.0	1.3	3.9	2.4	1.0	0.4
国産分	2.9	1.7	4.0	2.5	1.0	0.7
素原材料	0.7	2.6	3.0	2.1	-0.4	-0.1
製品原材料	3.2	1.6	4.1	2.5	1.1	0.9
輸入分	4.0	-2.6	2.6	2.0	1.5	-1.8
素原材料	4.1	-1.9	3.1	2.4	1.3	-2.1
製品原材料	1.5	-9.3	-2.9	-4.3	4.4	-0.6

(注) 通産省調べ、43年9月は暫定。

## 販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	42年		43年			
	12月	3月	6月	6月	7月	8月
総合指数	125.2	130.7	126.0	126.0	134.7	140.9
前期(月)末比	5.7	4.4	-3.6	-3.4	6.9	4.6
素原材料	-3.7	4.0	0.9	6.2	7.0	9.7
製品	6.3	4.4	-3.9	-4.1	7.1	3.9

(注) 通産省調べ、43年8月は暫定。

映じて、9月の原材料在庫率指数は83.8となり、前月比+0.7%とわずかながら上昇した。

8月の販売業者在庫は、前月比+4.6%と引き続きかなりの増加を示した。内容をみると、カメラ、時計、洋紙等を除き軒並み増加しているが、とくに前月同様自動車の在庫増加が顕著であるほか、非鉄金属、生ゴム、繊維原料の増加も目だっている。

## (設備投資——10月の機械受注は小幅の減少)

設備投資にはほぼ一致して動く一般資本財出荷の動きをみると、7～9月に伸び悩んだ(前期比-0.4%)あと、10月(速報)は前月比+12.5%と大幅な増加に転じていることから推して、設備投資は7～9月一時中だるみをみせたあと、最近再びかなりの増勢を示しているものと推定される。

設備投資の先行指標である機械受注(海運を除く民需)は、7～9月著伸(前期比+14.5%)のあ

## 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	43年			43年		
	1～3月	4～6月	7～9月	8月	9月	10月
民需	1,261	1,528	1,702	1,728	1,702	1,764
	(-16.2)	(21.1)	(11.4)	(3.3)	(-1.2)	(3.3)
同(海運を除く)	1,167	1,360	1,557	1,586	1,630	1,606
	(-17.0)	(16.5)	(14.5)	(9.0)	(2.8)	(-1.5)
製造業	679	756	906	854	1,091	988
	(-22.5)	(11.4)	(19.8)	(10.5)	(27.6)	(-9.5)
非製造業	585	765	824	862	706	788
	(6.0)	(30.7)	(7.7)	(-4.5)	(-18.1)	(-11.7)
同(海運を除く)	489	604	674	725	613	631
	(-7.3)	(23.5)	(11.6)	(6.3)	(-15.4)	(2.8)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

とだけに、10月はさすがに-1.5%と小幅ながら減少した。しかし、7～9月の平均受注額と比較すると、なお3.1%方上回っており、基調としては依然根強い動きを持続しているものとみられる。10月の動きを受注先業種別にみると、製造業は石油・石炭が前月減少の反動もあって著増し、窯業などもかなりの増加を示したが、化学が前月著増の反動から大幅に減少したほか、鉄鋼も相当な減少となったため、全体では前月比9.5%の減少となった。反面、非製造業は、電力の大幅増加を主因に、前月比2.8%の増加となった。

## ◇主力商品の軟化目だつ

10月後半から11月にかけての商品市況をみると、全般に値動きに乏しいながらも繊維が全面安となり、鉄鋼も鋼板類を中心に値下がりするなど、主力商品が総じて軟調裡に推移した。ただ、非鉄、木材、セメント等は強含みを続けた。

こうした主力商品の軟化は、一般に供給側が強気の態度を続けている反面、中間段階や中小ユーザーなどでは手当て態度を慎重化しているため、主として仮需の減退を主因に需給にいくぶんの引きゆるみを生じていることによるものと考えられる。すなわち、鉄鋼、繊維などの大手メーカーは当面の相場軟調を気にはしつつも、なお長期的観点から大型景気持続を確信して強気の生産態度を改めていないのに対し、特約店、糸商、小口ユーザーは、米国での輸入制限強化の動き(鉄鋼)や、定期市場における一部紡績メーカーの期限切れ玉放出予想(繊維)など、目先の悪材料を警戒して慎重な仕ぶりが目立ち、これまでみられた先行き期待感に基づく在庫補充の動きも、非鉄などを除き最近ではほとんど影をひそめているようである。したがって、生糸など1、2の品目を除けば基本的に荷余りが生じているわけではないが、上記のような需要、供給側の先行きへの見方に大きな隔たりがあるかぎり、当面市況は弱含みのうちにもみあい状態で推移するものとみられる。

品目別の動きをみると、鉄鋼は、主力鋼板類を中心に値下がりした。メーカーの強気の生産態度

を映じて供給増加が目だつ一方、需要は輸出の先行き懸念(輸出成約、9月828千トン、前月比22%減)に加え、10月から尾を引いている信用不安に対する特約店の警戒気運などもあって、ひところみられたユーザー、特約店筋の在庫補充買いの動きも後退している。繊維は全面安となった。現実の荷動きには目だった変化は生じていないが、定期市場での取組み関係や、生産増加傾向をながめた機屋、ニッターの買い控えから、メーカーの糸市販契約(来年1~3月物)はこのところさして進歩をみていない模様である。非鉄は堅調を継続した。銅は海外高と内需堅調を映じて11月18日に再び建値上げをみたほか、鉛も玉不足が目だって強含みを続けた。石油では、灯油が季節的に値上がりしたが、C重油、揮発油は大型設備稼働本格化に伴い軟調となった。セメントは活発な荷動きにきさえられて堅調を続け、木材も国内材は適材薄から値上がりした。化学製品は総じて保合いに推移しているが、一部基礎薬品(塩素、塩

酸)では品不足が目だち強含みとなった。紙のうち洋紙は保合いながら、板紙は、青果物、弱電向け荷動き活発で強含みに推移した。砂糖は、海外相場上伸をはやして一時値上がりしたが、その後荷動きは鈍く保合いとなった。

(卸売物価——騰勢一服ぎみ)

10月の卸売物価は、米価引上げが大きく響いて前月比0.2%の上昇を示した。品目別では、上記米のほか、豚肉の値上がりから食料が相当の上昇となったほか、鉄鋼(棒鋼、鋼板)、金属(ドア・サッシ)、木材(国内材)等も値上がりを見たが、繊維(生糸、綿糸)、化学製品(基礎薬品の一部)等は下落した。産業別では、工業製品価格が大企業性製品の落着きから保合いとなったが、非工業製品は前月比+1.1%と引き続きかなりの上昇を示した。

11月にはいつてからは、上旬は食料品の値上がりなどが響いて前旬比0.1%の上昇となったが、中旬は保合いに推移した。また工業製品価格も、同様に上旬微騰(+0.1%)のあと中旬は保合いとな

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	上 昇 期 (ボトム40/7) 40/7 →43/2	下 降 期 (ピーク43/2) 43/2 →43/10	最 近 の 推 移							
				43 年			43 年 10 月			43年11月	
				8 月	9 月	10 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	
総 平 均	100.0	+ 6.1	- 0.2	保 合	+ 0.6	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1	保 合	+ 0.1	
食 料 品	15.7	+ 9.7	+ 3.8	- 0.1	+ 0.8	+ 1.2	+ 1.2	+ 0.4	+ 0.2	+ 0.4	
繊 維 品	10.7	+ 11.4	- 2.8	- 0.6	- 0.1	- 0.5	- 0.3	- 0.3	保 合	+ 0.1	
鉄 鋼	9.7	- 0.9	- 0.2	+ 0.1	+ 0.9	+ 0.5	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.1	
非 鉄 金 属	4.4	+ 19.3	- 7.1	- 0.7	+ 3.1	+ 0.2	+ 0.4	- 0.2	- 1.1	- 0.8	
金 属 製 品	3.8	+ 4.6	+ 0.8	+ 0.3	+ 0.3	+ 0.8	+ 0.7	保 合	- 0.1	保 合	
機 械 器 具	22.1	+ 1.1	0.0	- 0.1	保 合	- 0.2	- 0.2	- 0.1	保 合	保 合	
石 油 ・ 石 炭	5.6	0.0	- 4.3	- 0.4	- 0.1	+ 0.3	+ 0.3	+ 0.1	- 0.1	+ 0.3	
木 材 ・ 同 製 品	6.2	+ 29.7	+ 2.3	+ 1.1	+ 2.0	+ 0.5	+ 0.3	+ 0.1	保 合	- 0.1	
窯 業 製 品	3.0	+ 7.1	+ 1.1	+ 0.1	保 合	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.1	保 合	+ 0.3	
化 学 品	7.6	- 5.1	- 1.8	+ 0.1	- 0.1	- 0.2	保 合	保 合	- 0.1	保 合	
紙 ・ パ ル プ	3.4	+ 2.5	- 0.1	保 合	+ 0.2	+ 0.3	保 合	+ 0.1	+ 0.1	保 合	
雑 品 目	7.9	+ 6.3	+ 0.6	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.4	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.4	
工 業 製 品	82.0	+ 3.8	- 0.1	保 合	+ 0.4	保 合	保 合	保 合	保 合	+ 0.1	
うち											
大 企 業 性	59.6	+ 1.3	- 0.3	- 0.1	+ 0.3	保 合					
中 小 企 業 性	21.0	+ 11.0	+ 1.0	+ 0.2	+ 0.6	+ 0.3					
非 工 業 製 品	18.0	+ 16.4	- 0.3	+ 0.1	+ 1.0	+ 1.1	+ 1.1	+ 0.3	保 合	+ 0.3	

(注) 本行調べ。

った。

(消費者物価——根強い上昇基調)

10月の消費者物価(東京)は、前月急騰を示した食料費が季節商品の出回り好調から大幅な下落を示し、被服費も値下がりしたため総平均では前月比0.8%の下落となった。もっとも、季節商品を除いてみると、前月比+0.4%と根強い上昇を示した。

11月は前月比+0.3%と再び上昇した。前月同様、野菜、くだもの値下がりから食料費は-0.3%と続落したが、住居費(家賃・地代、設備修繕費)、被服費(オーバー、洗たく代)、雑費(新聞代、映画観覧料)などはそれぞれかなりの上昇となった。この結果、4~11月平均の前年同期比上昇率は6.0%、季節商品を除いても同5.9%となっている。

(輸出入物価——前月比0.2%上昇)

10月の輸出入物価は、前月比+0.2%と続騰した。品目別では、繊維は下落したが、金属・同製品(鉄鋼)、機械器具(船舶)、非金属鉱物(タイル)等

はそれぞれ上昇した。他方、輸入物価も前月比0.2%の上昇となった。品目別では、銑鉄、鉄くずは本邦業者買付け増加から値上がりしたものの、非鉄金属(銅系非鉄)が大幅安となったため金属全体ではかなり下落したが、食料品(粗糖、とうもろこし)、繊維品(原毛)、雑品目等はそろって値上がりした。以上の結果、交易条件指数は前月比保合いとなった。

◆国際収支の黒字幅拡大

10月の国際収支は、貿易収支が前月を下回ったとはいえ引き続き相当な黒字幅を記録したうえ、長期資本収支が外資の大幅流入から再び受超に転じ、また貿易外収支の赤字もかなり縮小したため、総合で219百万ドルの黒字と前月に続き黒字幅を拡大した(前月黒字195百万ドル)。貿易収支の黒字幅は季節的な輸入の増加から前月を下回ったが、季節調整後でみると前月に近い235百万ドルの黒字(前月244百万ドル)と大幅黒字基調を持つ

消費者・輸出入物価の推移

(単位・%)

ウエ イト	前年度比 上昇率	最近の推移			最近の 前年 同月 比			
		43年						
		9月	10月	11月				
東 京	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.7	+4.1	+3.9	-0.8	+0.3	+5.1
		91.4	+4.9	+3.9	+1.3	+0.4	+0.9	+5.5
消 費 者 物 価	食料	40.9	+3.0	+5.7	+7.8	-2.1	-0.3	+5.3
	住居	10.7	+5.7	+3.7	+0.3	+0.1	+0.6	+2.9
	光熱	4.5	0.0	+0.1	+0.1	+0.2	+0.2	-0.2
	被服 雑費	13.0	+3.6	+3.0	+4.6	-0.2	+0.9	+5.7
全 国	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.7	+4.2	+2.3	+0.1		+4.7
		91.4	+4.7	+3.9	+0.9	+0.9		+5.0
人 口 五 万 人 以 上 の 都 市	総合	100.0	+4.6	+4.1	+2.6	-0.2		+4.7
	(季節商品 を除く)	91.3	+4.6	+3.9	+1.0	+0.8		+5.0
輸 入 物 価	輸出		+0.6	+0.2	+0.2	+0.2		+0.6
	輸入		+1.4	-0.4	+0.2	+0.2		-0.8
	交易条件		-0.8	+0.7	保合	保合		+1.4

(注) 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。

国際収支

(単位・百万ドル)

	43年			43年			前年 同月
	1~3 月	4~6 月	7~9 月	8月	9月	10月	
経常収支	△296	191	501	199	222	176	36
貿易収支	118	546	848	306	343	283	145
輸出	2,569	3,112	3,327	1,117	1,154	1,164	932
輸入	2,451	2,566	2,479	811	811	881	787
貿易外収支	△354	△310	△322	△97	△114	△95	△100
移転収支	△60	△45	△25	△10	△7	△12	△9
長期資本収支	△110	△19	△15	△12	△32	△30	△124
基礎的収支	△406 (△112)	172 (327)	516 (286)	187 (138)	190 (91)	206 (158)	△88 (△138)
短期資本収支	115	△20	22	61	△45	5	7
誤差脱漏	44	69	2	△59	50	8	3
総合収支	△247	221	540	189	195	219	△78
金融勘定	△247	221	540	189	195	219	△78
外貨準備	△42	13	384	151	137	194	△28
その他	△205	208	156	38	58	25	△50
外貨準備高	1,963	1,976	2,360	2,223	2,360	2,554	1,994
為銀対外 ポジション	△1,234	△1,022	△857	△911	△857	△831	—

(注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
2. 短期資本収支には金融勘定に属するもの含まない。  
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

続している。一方、貿易外収支は、利子、手数料支払が季節的な減少をみたことから赤字幅を縮小(95百万ドルの赤字、前月同 114 百万ドル)した。資本収支のうち長期資本は、本邦資本の流出が前月をやや下回ったうえ、外国資本の流入が、証券投資、外債発行代り金などの増加から前月を上回ったため再び受超に転じ、前月比62百万ドルの大幅改善をみた。また短期資本も、輸出前受金の受取り増などから流入超となった。

金融勘定では、外貨準備が194百万ドルと月中としては記録的な増加を示し、為銀ポジションも期明け月にもかかわらず輸出の好調を映じて買持輸出手形が増加したため、引き続き改善(26百万ドル)をみた。この結果、月末の外貨準備高は2,554百万ドルとさらに水準を高め、これに為銀ポジションを加えたわが国全体の対外短期ポジションでも、1,723百万ドルの資産超過と従来のピークであった41年12月末の水準(1,556百万ドル)を大きく上回った。

10月の輸出は季節調整後で前月比 -1.4%と、前月かなりの伸び(同 +3.0%)を示したあとやや伸び悩んだが、前年同月比では +24.9%と7~9月並みの高い水準を持続した。当月の輸出については、前月急増した船舶輸出が大幅に減少した(通関ベース9月138百万ドル、10月68百万ドル)

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通 関		輸出信用状	輸出認証	輸入承認
	輸出	輸入	貿易じり	輸出	輸入			
42年								
10~12月	872	826	46	887	1,065	732	931	1,078
43年								
1~3ヶ月	945	808	137	960	1,025	780	1,014	903
4~6ヶ月	1,048	814	234	1,068	1,027	849	1,119	927
7~9ヶ月	1,073	867	206	1,107	1,108	876	1,163	1,006
43年6月	1,034	809	225	1,048	1,013	844	1,110	913
7月	1,005	888	117	1,046	1,130	895	1,157	1,013
8月	1,091	834	257	1,101	1,067	858	1,155	1,006
9月	1,124	880	244	1,173	1,128	874	1,176	999
10月	1,108	873	235	1,132	1,123	949	1,233	1,001

(注) 1. 季節調整はセンサス局法による。  
2. 四半期計数は月平均額。

一方、鉄鋼等の一部品目で米国港湾スト再突入懸念(12月下旬)、北米航路運賃引上げ(11月1日)見越しによる船積み繰上げの動きが若干みられるなど特殊な要因も響いているが、総体としてこれまでの続伸基調に変化が生じたとはみられない。商品別(通関ベース)にみると、上記船舶のほか、綿織物も前年を下回ったが、自動車、テレビ、合繊織物、雑貨等は従来同様好調な伸びを続けており、また鉄鋼も、米国向けの好伸から伸び率を高め

通 関 輸 出 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	43 年			43 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	8 月	9 月	10月
食 料 品	104 (+ 24)	89 (+ 16)	111 (+ 7)	35 (- 4)	46 (+ 26)	48 (+ 40)
魚 介 類	71 (+ 27)	52 (+ 9)	73 (+ 4)	23 (- 11)	32 (+ 30)	34 (+ 51)
織 維 製 品	367 (+ 1)	485 (+ 12)	513 (+ 21)	181 (+ 29)	164 (+ 16)	184 (+ 24)
綿 織 物	45 (- 20)	59 (- 8)	59 (+ 1)	20 (+ 4)	20 (+ 4)	22 (- 2)
合 織 織 物	69 (+ 5)	91 (+ 21)	103 (+ 44)	35 (+ 49)	34 (+ 34)	39 (+ 27)
化 学 製 品	149 (- 3)	207 (+ 15)	220 (+ 23)	77 (+ 26)	71 (+ 29)	75 (+ 28)
非 金 属	71	82	82	27	27	31
鉱 物 製 品	( 0)	(+ 9)	(+ 11)	(+ 12)	(+ 8)	(+ 27)
金 属 製 品	484 (+ 22)	586 (+ 37)	615 (+ 34)	206 (+ 30)	206 (+ 28)	220 (+ 45)
鉄 鋼	353 (+ 22)	427 (+ 40)	455 (+ 38)	151 (+ 32)	158 (+ 37)	162 (+ 52)
機 械 機 器	1,164 (+ 20)	1,361 (+ 30)	1,462 (+ 27)	483 (+ 26)	539 (+ 39)	493 (+ 16)
(船舶を除く)	884 (+ 20)	1,107 (+ 32)	1,184 (+ 35)	404 (+ 36)	401 (+ 37)	425 (+ 40)
テ レ ビ	39 (+ 2)	57 (+ 77)	84 (+ 76)	28 (+ 67)	33 (+ 103)	35 (+ 81)
ラ ジ オ	73 (+ 11)	98 (+ 24)	120 (+ 29)	39 (+ 23)	42 (+ 32)	42 (+ 21)
自 動 車	137 (+ 47)	179 (+ 52)	185 (+ 98)	60 (+ 89)	65 (+ 101)	63 (+ 72)
船 船	280 (+ 19)	254 (+ 22)	278 (+ 2)	79 (- 7)	138 (+ 45)	68 (- 44)
光 学 機 器	73 (+ 6)	91 (+ 16)	98 (+ 20)	36 (+ 31)	31 (+ 16)	35 (+ 25)
そ の 他	274 (+ 15)	360 (+ 16)	387 (+ 14)	137 (+ 20)	120 (+ 8)	130 (+ 26)
合 計	2,612 (+ 15)	3,171 (+ 25)	3,389 (+ 24)	1,146 (+ 25)	1,173 (+ 28)	1,181 (+ 25)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

た。仕向け先別には、米国向けが上記積み急ぎの影響もあって大幅な増加(前年同月比+49%)となったほか、東南アジア向け(同+35%)が繊維製品、機械を中心に、また中共向け(同+42%)も肥料、鉄鋼を中心にそれぞれ高い伸びを示したが、反面、西欧向け、アフリカ向けは、船舶の減少が響いていずれも前年を下回った。

ここ一両月やや伸び率が鈍化していた輸出信用状接受額は、10月には、12月積み繊維製品の集中といった特殊事情も響いて、前年同月比+32.1%、季節調整後の前月比でも+8.5%と再び高い伸びを示した。

10月の輸入は前年同月比+11.9%となり、季節調整後では前月を0.8%方下回ったが、これには、前月在庫増しによりかなりの増加をみた原油の輸入が、当月はその反動から減少したことが相当響いており、この点を考慮すると、輸入は引き続きゆるやかな漸増基調をたどっているものとみられる。商品別(通関ベース)にみると、木材、石炭等が根強い増加基調を続けているほか、このところ増勢が多少弱まっていた化学製品、機械機器がかなりの増加を示し、また羊毛、綿花も前年の水準がとくに低かった関係もあり伸び率を高めた。

なお9月の輸入素原材料在庫は8月を大幅に上回り、同在庫率指数も季節調整前で前月比+10.1%と著しく上昇したが、これは主として上記原油の在庫増によるもので、その他の品目では目だった変化はみられない。

先行指標である輸入承認は、前年同月比+12.0%と7~9月期の伸び(同+4.4%)を大幅に上回り、季節調整後も前月比0.2%の増加となった。品目別には、木材、機械等の増加がやや目だったほか、年初来一貫して前年水準を割り込んでいた

銑鉄も、久方ぶりに前年を上回った。

### 通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	43 年			43 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	8 月	9 月	10月
食 料 品	462 (+ 2)	485 ( 0)	445 (+ 8)	155 (+ 9)	146 (+ 4)	163 (+ 9)
小 麦	74 (+ 16)	68 (- 26)	74 (- 7)	28 (- 7)	25 (+ 2)	22 (- 24)
とうもろこし	58 (+ 2)	67 (+ 23)	54 (+ 8)	18 (+ 7)	17 (- 6)	20 (- 6)
砂 糖	45 (+ 25)	44 (+ 40)	26 (- 1)	10 (- 11)	8 (+ 18)	12 (+ 18)
原 燃 料	1,791 (+ 13)	1,921 (+ 13)	1,864 (+ 13)	602 (+ 8)	609 (+ 11)	651 (+ 11)
羊 毛	82 (- 15)	96 (- 4)	92 (+ 2)	31 (- 6)	26 (+ 3)	28 (+ 22)
綿 花	127 ( 0)	154 (+ 12)	114 (+ 25)	36 (+ 21)	38 (+ 25)	42 (+ 50)
鉄 鉱 石	187 (+ 11)	218 (+ 15)	210 (+ 16)	72 (+ 15)	62 (+ 4)	72 (+ 19)
鉄鋼くず	39 (- 33)	34 (- 61)	32 (- 67)	9 (- 7)	12 (- 53)	20 (- 26)
大 豆	69 (- 11)	68 (+ 11)	66 (+ 9)	17 (- 9)	21 (- 7)	24 (- 2)
木 材	249 (+ 26)	315 (+ 37)	300 (+ 19)	98 (+ 6)	93 (+ 22)	103 (+ 21)
石 炭	122 (+ 32)	126 (+ 23)	135 (+ 38)	41 (+ 31)	45 (+ 38)	44 (+ 26)
原 油	417 (+ 22)	410 (+ 19)	404 (+ 22)	139 (+ 25)	141 (+ 17)	151 (+ 12)
化学製品	166 (+ 18)	157 (+ 4)	174 (+ 13)	54 (+ 2)	56 (+ 5)	68 (+ 24)
機械機器	333 (+ 36)	339 (+ 22)	307 (+ 25)	94 (+ 11)	101 (+ 14)	109 (+ 35)
鉄 鋼	64 (- 12)	51 (- 48)	56 (- 39)	20 (- 41)	19 (- 39)	19 (- 55)
非鉄金属	161 (+ 26)	152 (+ 3)	145 ( 0)	50 (- 11)	51 (+ 10)	55 (+ 2)
そ の 他	144 (+ 40)	149 (+ 25)	178 (+ 30)	59 (+ 21)	58 (+ 27)	61 (+ 39)
合 計	3,120 (+ 15)	3,255 (+ 9)	3,170 (+ 12)	1,034 (+ 6)	1,039 (+ 9)	1,127 (+ 11)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。